

## 信濃蟹藏

## 雨情

ひかし〜信濃の國の或山中に永年棲んで居ました信濃蟹藏と申す一疋の大蟹が、ある日こんな事を考へ初めました。

斯う言ふ淋しい山の中で暮らすよりも寧ろ賑な場所へ行つて暮した方が餘ッ程面白くて益だ、しかし人間に較べると蟹は幾ら損だか知れやしない何麼かして人間に成りたいもんだ、何うすれば人間になれるだろう、と苦心の末伊勢の太神宮様を心信すれば人間に成れるだらうと思ひ付きましたそこで蟹藏は急に伊勢詣りと決心しました、又よく〜考へて見ますれば、蟹が伊勢詣りをして人間に成つたと言ふ事が、世間の人の耳に這りでもすると人間に成つてから大に幅が利かないと思ひましたので、何んでも人間の振りをして行く

のが第一だと、そこで何うすれば人間の振りが出来るやうかと思案に思案を重ねて漸く着物を着さへすれば、それで人間の振りが出来るとホク〜者で着物買ひに出掛けました。

『今日は〜、人間の着る着物を見せて下さい。』と申しますと、店の番頭は合點をして種々な品の變つたのを出して見せました、その中で一番安い單衣を買つて蟹藏は山中の住家へ歸つて來ました。

頃は丁度夏の初めで、野や山の草は青々と茂つて、森や林の梢は綠葉に閉ざれて、何んとなく、すが〜しい日和の朝、單衣に甲を隠して蟹藏は伊勢詣りの途に就いたのです。

蟹藏自身では人間の振りをして居ますが、他から見れば矢つ張り蟹が單衣を着て居るとしか見

ませないので、行き逢ふ人毎にクス／＼笑つて通り過ぎないものは有りませんです、けれども蟹藏はそんな事とは少しも氣が付きませんで、毎日十里づゝ歩いて丁度四日目に成りますと、十里以上もあらうと思はるる程廣い野原へ差しかかりましたすると相憎空が曇つて今にも夕立が来るやうな模様となりました。若しも降られたら大變だと蟹藏は急ぎましたが、その甲斐がなく遂々夕立の爲めに單衣から何にからかにまで身体全体ビシヨ濡れとなつて仕舞いました。

さうする中に夕立も晴れましたので。致方なしに濡れた單衣を着たまゝ急いで漸く野原を抜ける時分には最早すれ／＼に日が暮れて仕舞いました。

すると後から。

十六  
「泥棒！泥棒！」と云ふ人聲がしますので、蟹藏は何事かと振り返へつて見ますと、一人の男が馳けて来るや否や、蟹藏の胸元を確と押へまして。

「これ前前は去年俺の着物を盗んだな。何にそんな事は知らない……でも前前の着て居る單衣は俺の着物だツ。」と言はれましたので、蟹藏は氣が付いて見ますと吃驚致しました。今まで自分の着て居た單衣とは違つて模様も何にも何い白地の晒で春中の真中に大きく「南無妙法蓮華經」と書いてあります。それもその筈。或る泥棒が盗んで、それを染めて店へ賣つたのを蟹藏が買ったのであります。そして夕立に逢つて染めたのが落ちたのを知らずに蟹藏が着て居たのだつたとさ (完)